

建設通信新聞

最新動向や課題学ぶ場に

日測協がイノベーション大会



日本測量協会(清水英範会長)は6月30日、7月1日の2日間、東京都文京区の東京大学伊藤国際学術研究センターをメイン会場に、「測量・地理空間情報イノベーション大会2026」を開いている。写真。全国9支部のサテライト会場を結んで測量・地理空間情報に関する技術とそれを利用した新事業の展開、人材育成や教育

研修など、同分野の技術革新に役立つ幅広い議論と情報発信の場とする。約3065人が参加登録している。スポンサーリスト(SP)の会とジオメトリストの会が共催で、国土交通省国土地理院が後援する。

6月30日の開会に当たり、清水会長は「今回は、人材育成に重きを置いたプログラムになっている。測量・地理空間情報分野の最新動向や抱えている問題点・課題、その背景にある社会的・経済的ニーズを効率的に学ぶ場として活用してもらいたい。また、同じ分野で一緒に頑張って、切磋琢磨している人たちの交流の場としても大会を活用してもらいたい」とあいさつした。

この日は、技術動向最前線として準天頂衛星システム「みちびき」の最新動向に関する講演や特別講演「若手を即戦力に育てる新時代

の技術伝承」のほか、大手航空測量企業らの人材育成の取り組みや防災DX(デジタルトランスフォーメーション)・AI(人工知能)防災と地理空間情報の重要性、橋梁点検業務におけるAI活用の実践について発表した。また、ソクジヨの会の活動紹介、SPの会の「人材育成懇談会報告」なども行われた。

7月1日は、3Dガウシアンスブラッキング(3DGS)の最新動向、測量分野への応用や活用例・将来展望についての講演やパネルディスカッション、スマートフォンを使った3次元測量の最新動向に関する講演、SPの会のパネルディスカッションなどを行う。

会場では、会員企業や団体のポスターと協会発行の月刊専門誌『測量』の展示も実施している。東京会場のプログラムは、協会支部のサテライト会場にも同時配信する。7月21日から8月18日まで、オンデマンド配信も実施する。